

民具の形には、
意味がある。



(高橋克夫撮影)

瀬戸内海歴史民俗資料館

講演会

自然科学から 民俗資料を 読みなおす

Seto Inland Sea Folk History Museum

民俗資料コレクションについての新たな価値や多様な視点、未来に資する可能性などについて探ってきた当館が、今回は工学的なサイエンス視点からその価値を探ります。

名も無き民衆の技術や経験則、自然認識などの「暗黙の民俗知」の結晶ともいえる民俗資料を、自然科学の視点で見つめると何が見えてくるのか。構造力学の研究者に民俗資料を再評価いただくとともに、クロストークを通じてこれからの資料館のあり方について考えます。

2026. 9/5 (土) 13:30-16:30

香川県立ミュージアム

地下1階 講堂 (高松市玉藻町5-5)

無料

*会場は瀬戸内海歴史民俗資料館ではありません。ご注意ください。

定員：230名(先着順、要事前申込)

申込方法：電話、「香川県電子申請・届出システム」でお申し込みください。

*インターネットからのお申し込みは、瀬戸内海歴史民俗資料館ホームページ右下の関連リンクから「香川県電子申請・届出システムのページへ」をクリックしてください。

問合せ先：瀬戸内海歴史民俗資料館

[プログラム]

13:30 開会

13:35 講演 「構造力学の研究者が語る
“民具に見るモノづくりの根っこ”」

久保光徳 (千葉大学名誉教授・(株)デザインラボ・温故知新代表)

14:35 報告 「海の道具に教えられて」

柴田悠基 (香川大学准教授)

15:25 報告 「地域産業と博物館」

田井静明 (瀬戸内海歴史民俗資料館専門職員)

15:55 クロストーク

久保光徳、柴田悠基、田井静明

司会：松岡明子(瀬戸内海歴史民俗資料館館長)

16:30 閉会

久保 光徳 KUBO Mitsunori

東京大学大学院航空学専攻博士課程修了。1989年から2024年3月まで千葉大学工学部で教鞭をとり、現在は千葉大学名誉教授。退職後、「株式会社デザインラボ・温故知新」を設立。民具を「昔の道具」としてではなく、人々の創意工夫が形となったデザインとして捉え、その背後にある合理性や暗黙知を読み解き、未来のものづくりや創造教育への展開に取り組んでいる。



柴田 悠基 SHIBATA Yuki

東京藝術大学美術学部先端芸術表現科助教を経て平成29年(2017)から香川大学で教鞭をとり令和8年より現職。現代美術作家としても活動する傍ら、香川県と東京藝術大学の連携事業や、瀬戸内海歴史民俗資料館との共同活動など、地域に根差したアート活動にも精力的に取り組んでいる。



瀬戸内海歴史民俗資料館

Seto Inland Sea Folk History Museum

〒761-8001 高松市亀水町1412-2
TEL 087-881-4707 FAX 087-881-4784
<https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/setorekishi/>

